



㊦ 苗木遠山家 姫の調度と衣装

会期：令和 7 年 7 月 12 日(土)⇒10 月 13 日(月・祝)

会場：苗木遠山史料館 2 階特別展示室

苗木城築城 500 年記念プレ企画として苗木遠山家に伝わる史料を中心とした企画展「姫の調度と衣装」を開催します。

姫たちにふさわしい白無垢や着物など華やかな衣装をはじめ、絢爛な筥迫類や髪飾り、豊かな芸術性や高度の技術を感じる調度品やミニチュア道具、中津川市おいでん祭風流おどりの元になった絵画、佐土原藩島津家より第 12 代苗木藩主遠山友詳(後に友禄)公に嫁いだ嘉(後に美子)姫が記した道中記や詠草などを紹介します。

右展示ショーケース

鶴に松竹梅蒔絵違棚
黒漆塗竹に雀蒔絵手箆筒
黒天鷲絨地牡丹蝶模様筥迫
藍絹縮地春草鶏に飛雁模様着物

正面展示スペース

白綸子地飛鶴亀甲模様掛下
白綸子地垣に葵蝶模様打掛

左展示ショーケース

服飾類など

天鷲絨地縞柄紙入れ
紋縮緬地八重桜模様紙入れ
菊模様小物入れ
萌葱羅紗地梅模様筥迫
牡丹模様枝折り
紋縮緬地牡丹模様紙挟み
轡十字紋蒔絵整髪具
銀藤棚に梅びらびら簪
鼈甲簪
象牙簪

調度類など

黒漆塗花鳥蒔絵螺鈿羽子板
玉盃
丸の内に二つ引き紋入懸盤
轡十字紋蒔絵文箱
黒漆塗轡十字紋蒔絵御守箱
黒漆塗轡十字紋五七桐紋散蒔絵手箱
春蘭図麦藁細工箱
鼈甲風木箱
黒漆塗丸の内に二つ引紋蒔絵文箱
漆塗手提重箱
黒漆塗丸の内に二つ引紋蒔絵天目台
果実形合子
黒漆塗藤紋蒔絵箱
朱漆塗富士松原蒔絵盆
黒漆塗紅葉蒔絵硯蓋
福寿字木画硯蓋
黒漆塗鼈甲橘蒔絵箱
黒漆塗鶴丸紋蒔絵広蓋
飾棚

ミニチュア道具
染付八重桜文長皿
染付花唐草文碗
黒漆塗雨龍蒔絵印籠
亀に寿字文盃
染付花唐草文蓋付碗（井）
染付花唐草文碗
百籤
色絵桜文輪花鉢
褐釉水器
色絵秋草文蓋付鉢
象牙牛置物
染付桔梗形脚付小鉢
金彩富士網干文三方
染付花唐草文酒器
菊文箱
染付唐松文瓶
染付松竹梅文硯屏
白磁切合風炉釜
懷中仏三尊像
色絵流水に紅葉図扇形皿
子犬形根付
色絵金彩唐子人形
黒漆塗三つ巴紋蒔絵太鼓形碁笥
染付菊花鳳凰文蓋付壺
染付松竹梅文扇形皿
黒漆塗松竹梅蒔絵弁当箱
剣玉
染付唐草文丸三段重
色絵金彩秋草文把手付容器
巾着袋
竹に翡翠文沈金杯
染付松竹梅文三方
八橋杜若文象牙紅板
染付桜花文手付酒器
色絵桜花形重鉢
兎形切子硝子熨斗押え
染付竹詩文柄杓

色絵金彩燕文碗
色絵木瓜形皿
大理石四方脚付台
染付雲鶴文蓋付壺
染付牡丹文碗
色絵金彩狛置物（水滴）
染付桜文三つ組盃
染付金彩松桜文小碗
色絵金彩狛置物（水滴）
染付花唐草文蓋付鉢（井）
切子硝子脚付盃
色絵花蝶文油壺
色絵梅秋草文火鉢
染付松竹文土瓶
煙草入
染付松竹梅文三段重箱
染付松葉梅文竹形鉢
色絵竹林賢人図急須
金彩桜流水文蓋付鉢
染付松竹梅文脚付三段重箱
染付都鳥文盃
鉄釉蓋付壺

展示ケース

日記・永草

詠草 九月十三夜 風
美子（嘉子）自筆道中日誌
母君随真院御道中記

絵図

常盤橋御門内御拝領屋鋪之図
間取図（苗木城二の丸）
江戸芝将監橋御屋敷図
江戸芝将監橋御屋敷図増築後之図
江戸上屋敷図（江戸時代中期：芝将監橋）
春景富士の図（作：狩野則信）
風流踊図

遠山^{よしこ}嘉子 佐土原藩主9代藩主島津^{ただゆき}忠徹の五女。10代藩主島津^{ただひろ}忠寛の同母姉。天璋院^{てんしょういん}篤姫^{あつひめ}の従姉。

文政9(1826)年3月11日に江戸で生まれる。

天保14(1843)年10月1日に美姫^{よしひめ}を嘉姫^{よしひめ}と改名する。

天保14(1843)年10月1日17歳のときに苗木藩12代藩主遠山^{ともあき}友詳に嫁ぎ江戸にて過ごす。

文久2(1843)年10月1日36歳のときに苗木に入り、明治4年友禄^{ともよし}(友詳)とともに東京に移る。

明治10(1877)年1月7日に東京でなくなる。享年52歳。

島津^{よりこ}随子 嘉子の母親。薩摩藩9代藩主島津^{なりのぶ}齊宣の四女。

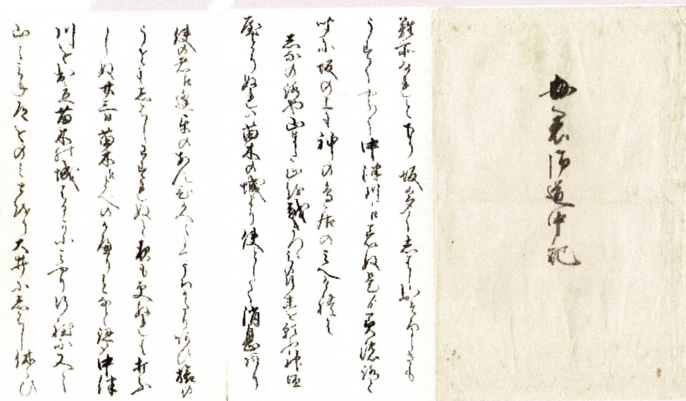
享和元(1801)年に生れる。名を高、のちに随^{より}と改め随姫^{よりひめ}と称された。

文化3(1816)年16歳にて佐土原藩主第九代島津忠徹の元へ嫁ぎ、その後3男6女に恵まれる。

天保10(1839)年に忠徹が急逝した為、39歳で随姫は髪を下ろし随真院^{ずいしんいん}と呼ばれるようになる。

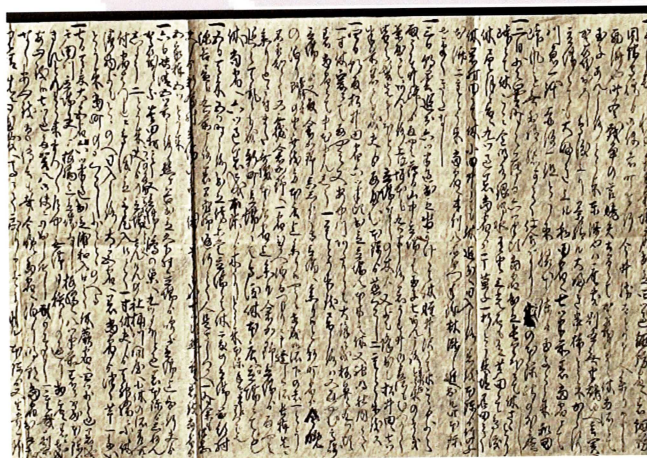
随真院は和漢の学に秀で、歌文書道に巧であった。

明治9(1876)年に享年76歳で亡くなる。

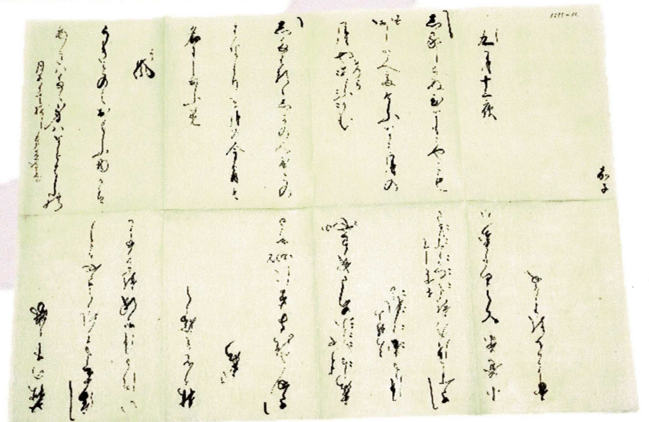


嘉姫の書き写した母君随真院の「母君随真院御道中記」の中には、中津川本陣御休泊の際、お互いの無事を近況や消息など文使いを通じて語り合い、というあたりに大名家の母と娘の微妙な立場と、母としての心情が飾ることなく記されています。

嘉姫の書き写した母君随真院道中記



美子(嘉子)自筆道中日誌



嘉姫の詠草 九月十三夜 風

文久3年(1863) 元治2年(1865)
参勤交代制度が緩和され、大名の妻子の帰国が許されることになった。文久3年(江戸～苗木) 元治2年(苗木～江戸)



ミニチュア道具



黒漆塗竹に雀蒔絵手箒筒



黒天鵲絨地牡丹蝶模様箒迫



風流踊図

1 階常設展示室にも姫道具が展示してあります



ミニチュア道具や装飾品



和宮の箏